

Laughter is the best medicine

～笑いは最善の薬～

1/15に舞子高校で行われた防災減災イベントに参加しました。以下は参加した防災班の感想です。

舞子高校防災減災イベントに参加しました。

始めに被災した方の話を聞きました。災害の話を聞いて、改めて、地域との繋がりが大切だとわかりました。また、お昼にはモーリアンヒートパックを使った非常食を食べました。モーリアンヒートパックとは加熱袋の中に、発熱剤をセットし、温めたい食材等を発熱剤の上に置いて、少量の水を入れるだけで温かい食べ物が食べることができるというものです。本当に温かいご飯ができて、とても便利でした。午後からは、舞子高校の生徒とワークショップを行いました。災害が起きた時の市の役割を実際に考えるとと言うものでとても難しく、言葉も初めて聞くものばかりで大変でしたが、とても勉強になりました。

今回は防災について力を入れている舞子高校に伺いました。前半は東日本外震災で被災された齊藤さんと雁部さんのお話を聞きました。齊藤さんが見せてくださった映像はどれも私によい刺激を与えてくれました。災害にあった方が辛い状況の中でもなんとか自分たちにできることはないかと、一生懸命に生きる姿が印象に残りました。また学校をより良いものにするために大人が何かをするのではなく子どもが率先して行動することが大事だと思いました。

- その後は分科会で各自好きなところに分
- かれて話を聞きました。私は雁部さんの
- ところへいきました。そこでは雁部さん
- が被災した当時の状況を詳しく聞きました。
- 雁部さんは、今自分が生きているのは
- 奇跡とおっしゃっていました。目の前
- まで津波が来て流されていく人がいた
- 中、自分はなんとか免れたというお話を
- 聞き、運が左右するものだと思いました。
- 午後は舞子高校の生徒とグループを作り
- ワークショップを行いました。初めて会う
- 人と話すことに不安があった一方、看護
- の授業中に毎週みんなで話し合いを行い
- 発表をしているので少し自信もありまし
- た。しかし、いざやってみると話す内容の
- レベルの高さにびっくりしました。正直
- 最初は何について話をしているのか、目的
- は何なのか全く分かりませんでした。しか
- し、舞子高校の方は丁寧に教えてくださ
- り、なんとか自分の意見を言え、発表で
- きる形に持っていく事ができました。発表
- の場面では勇気を出し、マイクをもって発
- 言しました。初めてのことだらけで戸惑う
- こともありましたが、とてもいい経験にな
- りました。またこのような機会があれば参
- 加したいです。そして、もっと他校と関わ
- りたいと思いました。

全体会では、言葉の大切さや歌で救われるということが分かりました。自分がしんどい時に、嫌な言葉を言われるととても心に刺さると思います。だから、災害時だけでなく、普段から周りの人がしんどそうにしている時、悩んでいる時は、優しく言葉を選びながら声掛けをしていけたらと思いました。

自分の目の前で人がなくなっていく姿はとても辛く悲しいと思います。「自分が少し手を伸ばせば助かっていた」という話を聞いて、ずっと心に残り辛いと思いました。しかし、そこで語り部をすることで救われたと仰っていました。周りの人が少しでも楽になるような環境を整えるということも大切だと思いました。

分科会では、自衛隊の方の話を聞きました。「自助」「共助」の大切さを改めて感じることが出来ました。災害時、自分には何が出来るのかを考え、手伝いをしたいと思いました。南海トラフ巨大地震がもし起きたら、日本ほぼ全体が被害にあうとおっしゃっていました。そうするとより一層地域で助け合っていないといけないと思いました。

ご飯のときに使用した、温めるセットはとても画期的でとても良かったです。

ワークショップでは、班全員が協力して意見を出し合って進めることができました。最初は、意見を言えるかととても心配でした。しかし、しっかり意見を言うことができました。難しかったけれど、スマートフォンを使って調べたり、資料を見たりしながら行い、とても楽しかったです。発表は、自分から「やります」と手を挙げることができました。しかし、発表している時に、ずっと下を向いていると指摘してもらい、「確かにそうだ」と思いました。次の発表では、前を向くことを意識して発表し

ていけたらいいと思います。学校の発表では、言うことを全て紙に書いて読んでいたけれど、今回は、本当に忘れそうなポイントだけを書いて後は、模造紙を見て少し付け足しながら言えました。今後もどんどん苦手なことに挑戦していくことができればと思います。

今回、舞子高校のワークショップに参加して多くのお話を聞くことができました。実際に東日本大震災を経験された方のお話を聞いて、テレビや教科書で見たものよりはるかにすごいことが起きていたということを知りました。少し場所が違うだけで助かった命や、助からなかった命があることを知りました。モーリアンヒートパック体験では専用の袋と水と粉があれば火を使わずに温かいご飯が食べられてすごいと思いました。災害が起きた際は、とても役に立つと思いましたが、水や粉がないと温められないのであまり使えないかなと思いました。午後からのグループに分かれての活動では、他の学校の人と災害が起きた際の問題点、課題、その解決方法を考え、発表しました。初めは、上手くいくか不安でしたがみんなで考えを出しあってまとめたり意見を交換したりできてとても楽しかったです。

今回は舞子高校での防災イベントに参加しました。まず、東日本大震災で被災された方からお話を聞きました。その方は、ある学校の校長をしているときに被災され、そこからどのように学校を再開していったのか、再開する際に、どのようなことを大切にされたのかなどを、お話しくださしました。そこで心に残ったのは、生徒を成長させるのは生徒だということです。その方が勤めていた学校の生徒は、学校を再開する際に生徒が主体的に動き、学校を変えていったそうです。そして被災した中でも、充実した学校生活を自ら作っていったそうです。その話をお聞きして、私は学校の在り方は本来そうしなければならないと思いました。しかし、現状私たちの学校はそうではないです。だから4月になれば3年生になる今、自分たちが主体的に動いていけるようになっていかなければならないと思いました。

その後、私は自衛隊の方のお話を聞きに行きました。自衛隊では、自衛隊になるために必要なことから、災害の際、どのようなことをしているのかなどをお聞きしました。わたしは、自助や共助については、たくさん学習して来ましたが、公助のことをあまり知らなかったのも、とても良い機会でした。

そして最後に、舞子高校の環境防災科の方と、避難所運営をしました。この避難所運営は、避難所においての色々な分野の問題を、その問題ごとに分けて、市役所の役職になりきり、チームで問題点から、解決策まで考えるというものでした。私は学校が避難所だった場合の、問題点と解決策を考えました。私は高校生のため、この問題は考えやすいものでしたが、他のチームは、避難所でのゴミの問題や、観光地の問題などを取り扱っていて、自分が全く考えたこ

- とがないようなことも、解決策を見出し
- ており、本当に凄かったです。この避難
- 所運営から、実際学校が避難所になった
- とき、私たちの学びの場である学校をど
- のようにしていくのかを、生徒である私
- たちが考えていかなければならないと強
- く感じました。
- このイベントを通して、防災の意識が変
- わったと思います。この経験を活かし
- て、もっとたくさんの方に、防災のこ
- を伝えていきたいと思いました。
- 今回、舞子高校のイベントに参加し、全
- 体会では東日本大震災に被災した方のお
- 話を聞きました。そこで、言葉の大切さ
- を知ることができました。言葉は時に人
- を傷付けてしまいますが、時に人を助け
- るので、これからは自分の言葉一つ一つ
- を気を付けて、人を傷つけるのではなく
- 助けたいと思いました。自分の目の前で
- 人が亡くなってしまうのはとても辛いこ
- とですが、語り部として伝えていく事で
- 救われたと仰っていました。語り継ぐこ
- とで救われる人もいるので、もっと周り
- の環境を話しやすい環境にしていく必要
- があると思いました。
- 分科会では自衛隊の方のお話を聞きまし
- た。災害が起きた時、どのタイミングで
- 支援に行くのか、どのような支援を行っ
- ているのかなどを知ることが出来まし
- た。支援には限界があり、全ての人を助
- けることが出来ない知り、改めて自
- 助・共助の大切さを知ることができまし
- た。
- ワークショップでは、舞子高校の生徒と
- 交流することが出来ました。災害が起き
- た時、地域医療はどうなるのかなどを考
- えました。自分の考えもしっかり伝える
- ことができ、よかったです。初めて舞
- 子高校の人と交流したので少し緊張し、

不安でしたが、しっかりと出来たのでよかったです。それぞれの役割を責任を持ってできました。とても楽しかったです。今回、舞子高校の生徒との交流や自衛隊の方などのお話を聞き、多くの事を知りました。また自分自身成長することができました。これからも多くのイベントなどに参加し、成長していきたいです。

最初の命のバトンや生徒がイベントを開いて、人々を元気づけようとしている動画を見て、すごく感動しました。自分も苦しい思いをしたのに、友達や家族、先生や地域の方々を笑顔にしている姿はとてもかっこよく、すごく良い活動だと思いました。「潮の匂いは」という散文詩を聞いた時、作者の思いをぶつけられたみたいに、重く感じました。頑張れ、と私たちはよく言いますが、作者や被害者の方々はその言葉はすごく重いことや亡くなった友人との日々を思い出して泣きたくなるといった率直な本音などが、痛いほど伝わってくる内容でした。津波という言葉じゃなく潮の匂いと言っているのも深い意味があるのかなと思いました。また、雁部さんも応援の手紙を読んだ時に、頑張っているのは充分知っている、だからゆっくり進んでくださいとメッセージを頂いた時が一番嬉しかったと仰っていました。普通は、頑張ってくださいの言葉を書こうと思いますが、その方は違う言い方をしていたので、私も人の気持ちが変わって言葉をかけられる人になりたいと思いました。分科会では雁部さんの話をもっと聞きたいと思い、雁部さんの話を聞きに行きました。目の前で人が流されたことや自分が波のおかげで助かったこと、学校での分断生活など色々な話を聞き

ました。その中でも、私が印象に残っている言葉は災間を生きるです。これは、災害と災害の間を生きるという意味で、今私たちが生きているのは次の災害までのカウントダウンの中で、対策をしていくという意味が込められています。これを聞いてすごく納得しました。次の災害がいつどこで起こるかわからないので、それに備えて準備を怠らないようにしていきたいと思いました。また、ワークショップでは知らない人と意見を出し合っまとめて発表する事が最初は不安でしたが、自分の意見を言い、相手の意見も聞いて、しっかりまとめて発表できたのでとても楽しかったです。最後に、雁部さんが言っていた「1日1つ思い出を」という言葉通り、毎日こんな事があったと、家族に報告できるように生きていきたいと思います。

今回は舞子高校での防災減災イベントでした。なかなか他校の活動を知る機会が少なく、今年はコロナの影響もあったのでこのように実際に現地へ行き、参加できて本当によかったと思いました。